

【短報】ナラキマダラツツコメツキの奈良市の記録

ナラキマダラツツコメツキ *Subprotelater japonicus* Nakane et Hisamatsu, 1991 は、奈良市春日山から採集された1個体に基づいて記載された種である(中根, 1987, 1991)。非常に少ない種で、原記載以降、鳥取県高鉢山(山治, 1998)、岡山県真庭市蒜山下徳山(渡辺, 2008)、岩手県紫波郡矢巾町広宮沢(高橋, 2010)などで記録報告があるが、春日山での再報はない。

筆者の手元には奈良市で採集された標本があるので報告しておく。

1♀, 奈良県奈良市春日野町, 6. VI. 2009, 齋藤琢巳採集, 筆者保管。

齋藤氏によれば、本個体は地上に落下した成人の腕大の比較的新しいイチイガシの枝上に静止していたところを採集され、その後、数回同地周辺を探索したが本種を見つけることは出来なかったとのことである。本種の生態は殆ど解明されておらず、これまでの採集された状況は、「カワラタケのような茸の生えた朽ちた木から採集した甲虫に混じっていた」(中根, 1987)、「標高750~800mのブナとミズナラを主体とする天然林でのFIT」(渡辺, 2008)、「標高294mの低山帯域で、草木のビーティング」(高橋, 2010)などで共通性はみられない。形態は渡辺(2008)に分かりやすく解説されている。

末筆ながら、貴重な標本を恵与頂いた齋藤琢巳氏(尼崎市)に心からお礼申し上げる。



図1. ナラキマダラツツコメツキ, ♀.

引用文献

- 中根猛彦, 1987. 日本産コメツキダマシ類についての覚え書き. 月刊むし, (198): 7-11.
 中根猛彦, 1991. 日本の雑甲虫覚え書き8. 北九州の昆虫, 38(2), 111-115.
 高橋泰美, 2010. 岩手県でナラキマダラツツコメツキが採れる. 月刊むし, (467): 41.
 渡辺昭彦, 2008. 岡山県でナラキマダラツツコメツキが採れる. 月刊むし, (445): 39-40.
 山治 治, 1998. ナラキマダラコメツキダマシの採集記録. ねじればね, (80): 8.

(有本久之 558-0052 大阪市住吉区帝塚山西3-4-21)

【短報】シラホシハナムグリ幼虫の生育環境の事例

シラホシハナムグリ *Protaetia brevitarsis brevitarsis* (Lewis, 1879) の幼虫は、これまでフクロウの巣箱内(那須, 2011)やイネ科草本を主としたリター層下の土壤中(飯嶋, 2017)で採集されている。また、コウノトリの人工巣から得られた繭の中の成虫死体がシラホシハナムグリと同定された事例がある(那須ら, 2010)。

筆者らは、採集した幼虫や繭を飼育して羽化成虫を種同定することにより、本種幼虫の生息環境を2件確認したので報告する。同定は酒井・藤岡(2007)をもとに、外部形態および一部の雄の交尾器を檢視して行った。

1. 河川中洲の樹洞

岡山市北区中原の旭川の中洲ヤナギ林において、開口部の地上高1.2mほど、開口部の直径10cmほどのヤナギの樹洞の中からハナムグリ類の幼虫6頭を2014年11月20日に採集した。これらを市販の昆虫マットで室内飼育したところ、2015年3月下旬に全個体が羽化し、本種と同定された。うち2♂を標本として保管した。

このあたりの中洲は地盤高が低く、流れの方向に細長く帯状に分断された諸島状の地形で、頻繁に地表が洗われるため草本植生は発達せず、腐植土の蓄積はほとんどない。また、このヤナギ林では毎年春から夏にカワウの繁殖コロニーが形成され、巣の中には古い巣材等が腐朽した腐植土があると思われるが、飯嶋(2017)によればシラホシハナムグリ幼虫がカワウの巣内で発育することは困難である。それが事実であれば、本種が産卵できる腐植土のある環境は、この中洲には樹洞しかないと推測された。なお、幼虫を採集した樹洞は大雨時の増水で開口部が水没するはずで、その時の幼虫の行動や耐性がどのようなものか興味深い。

2. 市街地のベランダに置いたプランター

2006年11月、兵庫県宝塚市山本南の戸建住宅(地上高約5m)において、市販の園芸用培養土を入れてミニトマト等の野菜を栽培していたプラスチック製プランター(幅70×奥行40×深さ25cm程度)の土中に80個体以上のハナムグリ類幼虫を発見した。そのまま放置した後、2007年5月に土を掘り起こしたところ50個以上の繭が出現した。これらの繭を培養土ごとプラスチックケースに入れて飼育したところ6月下旬に羽化し、数個体のシロテンハナムグリを除いて全てシラホシハナムグリであった。うち14♂15♀を標本として保管し

た。なお、このプランターには、肥料としてカブトムシ幼虫飼育後の糞粒まじりの腐葉土や、調理時に出た野菜・果物屑といった植物質の残飯のほか、魚の皮や骨等の動物質の残飯も頻繁に投入していた。

また、2017年10月、大阪府箕面市如意谷のマンションのベランダ(地上高約7m)において、同様の環境で100個体以上のハナムグリ類幼虫を発見した。そのまま放置した後の2018年4月22日、野菜の苗を植える際に少しだけ掘り返すと繭と幼虫が見られたので、繭10個を培養土とともにプラスチックケースに入れて飼育したところ、やはり6月下旬に羽化し、全てシラホシハナムグリであった。標本は保管していない。なお、このプランターには、前出の宝塚市の事例とは異なり、動物質の残飯は投入していなかった。

以上は本種の生態に関する知見の一端に過ぎないが、雌成虫が地上付近から地上高7mくらいの高い場所まで、市街地も含め立体的に産卵環境を探索していることがうかがえる。

引用文献

- 飯嶋一浩, 2017. シラホシハナムグリとリュウキュウツツヤハナムグリの産卵場所探索行動およびシラホシハナムグリの幼虫の生息環境. 鯉角通信, (34): 1-7.
- 那須義次・村濱史郎・松室裕之・上田恵介・広渡俊哉・吉安裕, 2011. フクロウの巣から発見されたシラホシハナムグリ(鞘翅目, コガネムシ科). Strix, 27: 67-72.
- 那須義次・村濱史郎・三橋陽子・大迫義人・上田恵介, 2010. コウノトリの巣から発見された鞘翅目と鱗翅目昆虫. 昆虫ニューシリーズ, 13 (3・4): 119-125.
- 酒井 香・藤岡昌介, 2007. 日本産コガネムシ上科図説第2巻食葉群1. 173 pp. 昆虫文献六本脚, 東京.

- (越山洋三 701-2214 赤磐市東軽部 516-1)
 (下野誠之 561-0883 豊中市岡町南 1-1-10
 環境科学大阪(株))
 (中尾浩平 651-2272 神戸市西区狩場台 1-51-70)

【短報】北大東島におけるヘリグロテントウノミハムシの記録

内藤は2018年に沖縄県北大東島を訪れ、同島からは未記録であるヘリグロテントウノミハムシ8個体を採集することができたので報告する。

得られた標本は、

1. 1 ex. (赤褐色型) ; 1 ex. (二紋型), 北大東村海岸, 21. IV. 2018, 内藤採集, 今坂同定.

2~3 m 位の樹木の枝から叩き網法で採集.

2. 5 exs. (赤褐色型) ; 1 ex. (二紋型), 北大東村屏風岩, 21. IV. 2018, 内藤採集, 今坂同定. 3~4 m 位の樹木の枝から叩き網法で採集.

北大東島では赤褐色型と二紋型のみで縁黒型は見られなかった. 標本8頭は内藤が保管している.

ヘリグロテントウノミハムシ *Argopistes coccinelliformis* Csiki (ノミハムシ亜科, テントウノミハムシ属) は, 本州, 四国, 九州, 沖ノ島, 八丈島, 三宅島, 小笠原, 甌島, 奄美, 沖縄に分布することが知られている(木元・滝沢, 1994). 国外でも, 中国, 台湾, 朝鮮半島, インドシナから記録されている(滝沢, 2012).

なお, 本種は元々, 全体赤褐色で上翅の外周~側縁が黒ずむ色彩型(縁黒型: 甲虫図鑑 IV, pl.40, No.19) からこのような和名が付けられたと思われるが, 琉球以南では全体赤褐色(赤褐色型: 図1)のものが最も多く, 縁黒型や, 全体黒色で上翅の中央に赤褐色紋をもつ型(二紋型: 図2)など, さまざまな色彩変異が見られる. 戦前の記録では琉球以南でのみ分布が知られていた. 現在ではヒイラギなど庭木について, 寒冷地を除く本土全域に広がり, 市街地でも庭木等に多く見られる. なぜか本土では上記の様な赤褐色系の色彩変異は見られず, 二紋型のみが知られる.

なお, 今坂の手元の標本を確認したところ, 沖



図1-3. ヘリグロテントウノミハムシ.